



氷見市教育研究所

氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

〒935-0016 電話 (0766) 74-8221

FAX (0766) 74-5520

e-mail kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/~602001/>



小中連携への取り組み

氷見市教育研究所

所長 屋 鋪 善 史

小学校6年から中学校1年になると、心身の著しい成長と学習環境の大きな変化とともに不登校やいじめが増加しているデータがある。その現象のことを中1ギャップと言っている。教育研究所では、その解消を目指し、本年度の教育大会の副題を「小・中学校の連携を通して」とした。中学校区の子どもたちはその校区の小・中学校の先生方が見守り、育てることをねらいとし、11月の教育大会分科会では、同じ中学校区の小・中学校の先生方が一堂に会して、公開授業を参観、協議することにした。公開授業のアドバイザーは同じ中学校区の教諭から選任し、授業づくりや研究協議会の折にアドバイスをしてもらおう。

公開授業には、小学校と中学校の先生がチーム・ティーチングするもの、指導案づくりにアドバイザーが事前に関わるもの、発達段階に応じた教材や指導方法の工夫の改善を図るものなどがある。6つの中学校区での授業や小中連携の仕方は、それぞれ異なり特色がでてい

る。夏休み期間中に開催した第3回教育セミナーのテーマは「小中連携について」であった。セミナー前半では、参加した小・中学校の先生方

が小中連携の在り方についてグループ討議をし、後半の講演では早稲田大学の安彦忠彦先生から小中連携の必要性と課題について話を聞いた。講演の中で広島県呉市の中学校の小中連携の成果が資料として提示された。それによると、中学校の不登校生徒やいじめ、校内暴力が減少していた。また国語や数学、英語の成績分布が2極分離の形から、成績がよい方に寄った正規分布に近い形になっていた。生徒指導面だけでなく、学習面においても小中連携の成果がはっきりと現れていたのである。

ともすると、小中連携は不登校や学習についていけない一部の子どもたちのための取り組みと思いがちであるが、決してそうではない。不登校やいじめをなくす学校づくり、学習についていけない子どもをつくらぬ授業づくりが、結局全ての子どもたちにとってよい教育効果をあげ、信頼される学校づくりにつながると考える。11月の教育大会分科会では、小・中学校の先生方が共に知恵を絞り、子どもたちや地域の実態に応じた研究が展開されるであろう。楽しみである。

充実した夏の研修

第4回教育セミナー

意味のある活動と価値ある内容の実現 窪小学校 川岸 和史

テーマ

「子ども中心の授業で確かな学力を保障する」



上智大学教授
奈須 正裕 先生

グループ協議では、心情面を育てることが大切だと感じた。小中学校とも算数や数学を中心にTTや少人数指導に重きを置いているが、子ども自身がどうしていきたいのか決定し、力をつけることが重要だと思った。中学校で指示を待つ傾向がみられると聞き、自分の指導についても考えさせられた。

講演では、「授業のうまい先生は、センスがよいだけでなく、授業が上手になるために毎日やっていることが必ず一つ以上ある」という一言に納得した。自分自身、座席のカルテを付けているが継続していこうと思った。

さらに、「よい授業とは、子どもたちにとって意味のある活動を通して、教師からみても価値のある内容を実現すること」であると、具体的な事例を挙げて話していただいた。今後、子どもの話を聴き子どもの立場に立ちながら、活動と内容を見極めることで、授業の質を高めていきたい。

確かな学力を保障する授業の創造

北部中学校 矢谷 義一

グループ協議では、小学校の先生方の「確かな学力」の捉え方や悩みは、中学校と何ら変わることなく、協同で考え、連携して取り組むべき課題であることを再確認できた。

奈須先生の講演は、演題から予想していた内容に反したものであった。自分自身の「子ども中心の授業」に対する考え方や捉え方が、講師のそれと若干違っていたことがショックであったとともに新鮮で、勉強になった。子どもの思考過程を考えているようで考えていない自分、子どもの欲求に応じていないようで応じていない自分、等々、新たな自分の発見があった。今までの経験の上にあぐらをかいていた自分を恥ずかしく思うと同時に、「やってみるか」という意欲をもつことができたことに感謝している。



第1回教育セミナー
神奈川大学講師
久田 邦明 先生



第2回教育セミナー
奈良文化女子短期大学教授
善野 八千子 先生

今年 の 講 師 陣



第3回教育セミナー
早稲田大学教授
安彦 忠彦 先生



第3回小中連携英語活動研修会
兵庫教育大学助教授
高橋 美由紀 先生

第3回小中連携英語活動研修会

小学校英語活動の充実

海峰小学校 指崎 美香

この研修会には毎回参加している。ワークショップで実践しながら学ぶことができ、学級での活動に生かしている。

今回のALTを交えてのグループ協議では、中学校の先生方の助けを借りて、各自が準備した氷見や日本の文化や自然について伝えることができた。また、新しく来られたジョンさんの自己紹介からジョンさん自身や出身地のカンザスについても知ることができた。他のグループのALTやCIRの他己紹介により異文化理解にもつながった。

高橋先生の講演とワークショップでは、「第二言語習得のプロセス」について具体的な活動を通して教えていただいた。日ごろ活動していることの一つ一つをしっかりと意味づけし、子どもたちと楽しみながら英語活動に取り組んでいきたいと思った。また、大がかりな準備物を用意しなくても、アイデア一つで活動がどんどん広がっていくことも分かり、大変参考になった。



特別支援教育コーディネーター会議

第3回学校経営研修会

市内連携のスタート 比美乃江小学校 西田 奈々

特別支援教育に関する各校の取り組みを聞くことができ、自校の課題やコーディネーターとしての悩みに対して解決の見通しをもつことができた。また、他校のコーディネーターの先生方とのネットワークづくりにもなった。

講師の二上先生からは、各学校の取り組みに対して共感的に受け止めていただきありがたかった。さらに、児童生徒の指導に生かす現実的な個別の指導計画作成や職員会後の校内委員会の開催、会議の一本化による時間の確保等、貴重な提案をたくさん聞かせていただいた。今後の取り組みの方向性が見えてくる充実した会議であった。

いじめへの対応 明和小学校 西田 実



講師の久保田先生からはテンポよくテーマを与えてくださり、焦点を絞って考え討議することができた。グループで話し合われたことを取り上げて、その後の講義に生かすなど

グループ討議の生かし方もとてもよかった。

たくさんの資料を準備していただき、もっと聴きたいということが何点もあった。「なぜ子どもたちはいじめを黙って見ているのか」「いじめが生じないのはなぜか」など、いじめの問題に鋭く切り込み、分かりやすく教えていただいた。最後に紹介していたピース・メソッドについても参考になった。

平成18年度 氷見市教育大会

研究主題：「生きる力」を育てる学習指導 ー 小・中学校の連携を通してー

大会日程

- 11月24日(金) 分科会 研究委託校での公開授業と協議
- 2月9日(金) 全体会 氷見市ふれあいスポーツセンター会議室
研修報告・教育論文等の表彰
講演 落語家 笑福亭竹林 師匠
演題「竹林の子育て教育と落語『子の心 親知らず』」

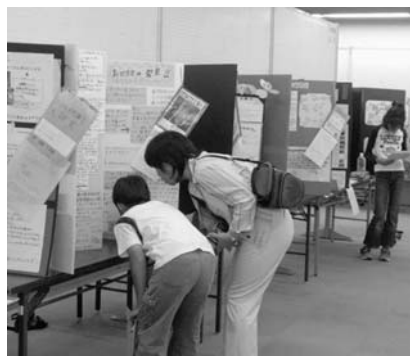
分科会 公開授業(会場校及び授業者・アドバイザー)

会場校	授業者	学年	題材・単元名	アドバイザー
朝日丘小学校	橘 泰 弘	4年 総合	ぼくたち・わたしたち朝日丘 エコチャレンジたい	北川美和子(十二町小)
	本 川 久 直	6年 総合	人にやさしいまち朝日丘	佐原 孝信(南部中)
比美乃江小学校	三津島 典 子	2年 創意	ひみのえをしょうかいしよう	西川真由美(海峰小) 稲積 玲子(北部中)
	森 田 智 子	3年 理科	明かりをつけよう ー明かりがつくおもちゃをつくろうー	濱田 義博(上庄小) 廣田 千恵(北部中)
	佐 原 久 代 伏 木 正 一	6年 算数	立体を調べよう	西岡 了(北部中)
湖 南 小学校	山 端 和 代	2年 算数	九九をつくろう	伏喜 栄子(仏生寺小)
	松 下 稔 東 海 恵 梨	6年 算数	立体のかさの表し方を考えよう	田中 順一(十三中)
久 目 小学校	長 井 登志美	1年 生活	あきとなかよし2 ーいっしょにあそぼうー	屋鋪 陽子(明和小)
	山 崎 里 美	5年 道徳	正しいことは、優しい? 易しい?	上田 好子(速川小) 梅田 寛(西部中)
女 良 小学校	寺 澤 小 織 小阪友子(灘浦中) イアン・ハーリー	3・4年 総合	どんな食べ物が好き? What food do you like?	寺崎 紀子(宇波小) 栗山 協子(女良小)
	圓 佛 吉 秀 中館直浩(灘浦中)	5年 算数	図形の面積	宮越 孝子(宇波小) 角 崇史(灘浦中)
西 條 中学校	市 川 義 浩	1年 社会	戦乱から天下統一へ	石出 裕子(窪 小)
	坂 井 幸 恵	2年 学活	健康な生活を考えよう (朝食の見直し)	島中ゆみ子(宮田小)

科学作品展覧会

9月16日(土)と17日(日)の2日間、氷見市教育文化センターで氷見市児童生徒科学作品展覧会が開催され、553名の市民の皆さんに子どもたちが調べまとめた作品を見ていただいた。

今年度は、小学校73点、中学校52点が出品された。小学校の作品では、身近な動物や植物を優しいまなざしで継続的に観察したり、身の回りの現象から独創的な研究の題材を見つけ、生活に生かそうとしたりするなど、意欲的な作品が多かった。中学校では、身近な現象や授業を発展させたものが多く、手作りの実験装置を考案するなど、実験方法に工夫を凝らし、得られたデータから考察を加えているレベルの高い追究的な作品が多かった。また、小中学校とも、継続して研究しているものや、パソコンでのデータ処理、デジタルカメラを活用した表示など、情報機器の活用した作品が多く見られた。



ALTのみなさんから

Ian Hurley 今年もよろしく



I come from Cork, in Ireland. I came to Himi last year and I am really enjoying life in Japan. I really like Japanese food and the people here are very friendly. I was very surprised by the snow last winter, but even Japanese people were! I hope to enjoy this year again. I want to learn more Japanese and travel more in Japan.

Justus-Kathleen Milburn 今年もよろしく



I'm from Vancouver, Canada. This is my second year in Himi. Last year I had many great experiences in Himi. I went fishing, participated in the *Marumage* Festival, and had a fantastic time teaching Himi's great children! School has started again, and I've had a lot of fun teaching the students at two schools. Their English is great. I'm looking forward to this next year in Himi. I've had a great time so far, and I think things will just keep getting better! よろしく!

John Mackey はじめまして



I am from Kansas in the USA. Before I came to Japan I was a substitute teacher in Kansas. I taught English and math to high school students. I am very happy to be in Himi. When I came to Himi the people were very nice. Himi is very beautiful. I enjoy living by the sea. Right now I work in five schools. They are nice schools. The students and staff are very friendly. I enjoy teaching English to all the students. They are very eager to learn. This year I hope to teach the students many new things. I also hope to learn many new things. I also want to learn about *kyudo* and *shodo*. I am very impressed by the dedication of the Japanese teachers. Teaching in Himi is a wonderful experience that I will always remember.

Linda Silvestri はじめまして



I am from New Jersey in the USA. Before coming to Japan I was an elementary school teacher. This is my first time to Japan and I'm very eager to learn more about the Japanese culture. Before arriving in Himi I was very nervous about the lifestyle changes I was about to face. Within just a few weeks I felt much more at ease about my move. The people of Himi were very kind and welcoming, which helped me to have a smooth transition. I am happy to be here to help the children of Himi have a better understanding of life in the USA. The experiences I will gain as an ALT in Japan will linger long after my stay. I feel privileged and proud to be a part of the Himi school community and look forward to a fun-filled year!